

ART
bee
HIVE

アート ビー ハイヴ

(公財)大田区文化振興協会が2019年秋に創刊した、地域の文化・芸術情報を盛り込んだ季刊情報紙。「BEE HIVE」とは、ハチの巣の意味。公募で集まった区民記者「みつばち隊」と一緒に、アートな情報を集めて皆さまへお届けします!

第24号

発行日
2025年10月1日毎1・4・7・10月初旬
11万部発行
※次号は1月5日発行予定紙面で紹介しきれなかった
情報をWEB版「+bee!」で
掲載しています。

公式PRキャラクターズビー



読書の秋 アートの季節がやってきた 絵本の秋



①『ゴムあたまポンたろう』長新太(童心社) ②『ねないこだれだ』せなけいこ(福音館書店) ③『ねこのチャッピー』ささめやゆき(小峰書店) ④『よるのさんぽ』たむらしげる(架空社) ⑤『はくのペンチにしろいとり』葉祥明(至光社) ⑥『ぴよちゃんのかくれんぼ』いりやまさとし(Gakken) ⑦『おばけのパンやさん』いちよんご(教育画劇) ⑧『こぶとりさんとワニくんのいどうはんばいの1日』萱間ふみ(CHICORA BOOKS)

大田区といえはかつては文士村、今は絵本作家タウン。

読書の秋、到来です。読書といっても色々ですが、絵本はいかがでしょうか。

今年で没後20年になる日本を代表する絵本作家のひとり長新太は、旧羽田町生まれの蒲田育ちです。独自のナンセンス世界は後の作家たちに多大な影響を与えました。昨年亡くなったせなけいこは1980年まで大田区に住んでいました。シンプルな貼り絵と独特のストーリーで、今も読み継がれる多くの名作を生み出しました。意外に知られていませんが、現在も大田区ゆかりの絵本作家が数多く活躍しています。馬込文士村は有名ですが、大田区は絵本作家タウンでもあるのです。

ささめやゆきさんは蓮沼生まれ。2024年『すなはまのバレリーナ エリアナ・パヴロバのおくりもの』の出版を記念して、武蔵新田の絵本屋TEAL GREEN in Seed Villageにて絵本原画展を開催しました。

たむらしげるさんは蒲田生まれ。初期は雑誌「ガロ」に漫画作品を発表。宮沢賢治や稲垣足穂などの影響を受けながらも、独自の世界を描いています。

大田区在住の作家を紹介します。

葉祥明さんはアンパンマンの作者やなせたかしに見出され、「メルヘン作家」として活躍。2021年、田園調布せせらぎ館にて原画展「葉祥明 ～やすらぎの世界展～」を開催しました。

いりやまさとしさんの『ぴよちゃん』シリーズは世界8か国語に翻訳され、累計650万部の大ヒット作です。

いちよんごさんは子育てを機に絵本やかるたを作り始め、「ごきげんようかい」を合言葉にこども向けの妖怪ワークショップを開催しています。

萱間ふみさんはあらゆる技法を使いこなす作家。ブキミカワイイ世界観が人気です。

長新太:1927-2005年。代表作『はくのくれよん』(1978)、『ゴムあたまポンたろう』(1998)など。

せなけいこ:1931-2024年。代表作『ねないこだれだ』(1969)、『あーんあーん』(1972)など。

ささめやゆき:1943年生まれ。代表作『ガドルフの百合/宮沢賢治 作』(1996)、『ねこのチャッピー』(2011)など。

たむらしげる:1949年生まれ。代表作『よるのさんぽ』(1990)、『よるのおと』(2017)など。

葉祥明:1946年生まれ。代表作『はくのペンチにしろいとり』(1973)、『イルカの星』(1996)など。

いりやまさとし:1958年生まれ。代表作『ぴよちゃんのかくれんぼ』(2003)、『みどりのくまとあかいくま』(2005)など。

いちよんご:1978年生まれ。代表作『あるある いるいる ようかいえほん』(2019)、『おばけのパンやさん』(2021)など。

萱間ふみ:1979年生まれ。代表作『こぶとりさんとワニくんのいどうはんばいの1日』(2019)など。